

「行動綱領」で創りだす新しい企業価値

—社会と顧客から評価される活力企業への行動ルール—



■講師

(株)現代経営技術研究所

主任研究員 大槻 裕志

■日時

2003年10月29日(水)

13:15~16:30

■場所

東京国際フォーラム
G408号室



*裏面地図をご参照ください。

セッションⅠ 経営がなぜ行動綱領の力を必要としているか

- 高まる戦略羅針盤としての企業理念の役割
- 新しい事業・業務価値観・行動体質の形成
- 環境変化・技術革新が生む新種のトラブルへの対応
- 社会・顧客・株主の企業への期待と監視の視線
- 組織内部基盤の変容と亀裂—新しい社員ロイヤリティの希求
- 統合の求心カーグループ企業のマネジメント、アフターM&A

<10分質疑>

セッションⅡ 企業倫理と葛藤のマネジメント

- 海外現地社員との理念・行動規範の共有化
- 価値観衝突の拡大、非民主国家での倫理問題
- 米国式倫理綱領の安易な導入の深い落とし穴
- 隠蔽体質の打破—潜在リスクを甘く見てはいけない
- 報告の巧拙が経営を左右—なぜ情報劣化が起こるか
- 内部告発対応・ヘルプライン運用の基本
- 正しいことに従う会社づくり

14:00~14:40

<コーヒーブレイク 20分>

セッションⅢ 行動綱領で生みだす企業活力と競争力

パート1: 行動綱領の創り方、バージョンアップの方法

15:00~16:20

- 行動綱領の条文作成・言葉の選択、表現の方式の留意点
- 創り方、見直し方、バージョンアップの手順
- 「わが社とは何か」に基づく設計・改訂—企業理念～倫理綱領
- 自社行動の競争力を高める綱領の新設(参考例)
・企業幹部の使命感強化—「経営綱領」、「マネジメント・プリンシプル」
・製造業の次世代化—「新モノづくり綱領」
・顧客からの真の信頼獲得—「お客様への誠意あるクレーム対応指針」

パート2: 社員・現場・組織の実践力強化(討議を交えて)

- 活力を生む人づくり、システムづくり、企業文化づくり
- 理念を行動に転化する力の育成・教育研修の変革
- 今、行動綱領実践強化のために何をなすべきか
—経営企画、人事、法務、広報、IR、研究開発、監査、知財管理…
- 社員一人ひとりの中に「素晴らしいわが社」を育てよう

16:20~16:30 参加者名刺交換(お名刺をご用意下さい)

※参加者から提起された問題については、時間が限られているため、後日フォローアップ会合を持つ場合があります。

講師の言葉

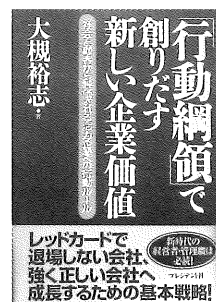
■行動綱領は企業が描く経営の自画像である

行動綱領は、企業が自らの行動姿勢を明文化したものです。企業理念、社是、具体的な指針としての社訓、倫理綱領、特定領域の行動規範を定めた環境経営方針、安全基本原則、知的財産権の取り扱い基準、顧客満足指針、等まで、すべてをひっくるめて行動綱領と呼ぶことができます。いわば、企業自身が描く経営の自画像と言っていいでしょう。

■行動綱領を活用して強力に素晴らしい会社を創ろう

行動綱領をつくり、本気で実践しようとする事は、社の行動を構想、設計することであり、現実と対峙してそれを克服する問題解決を推進することです。その中で行動綱領とセットになる自社独自の行動様式、運営ルール、問題解決のためのシステムが創りだされるのです。こうして創りだされる行動こそが新しい企業価値を生む原動力になります。

当セミナーでは、行動綱領を活用して強く正しく活力ある企業をつくるための人づくり、制度・システム構築、企業文化形成についての現研流のアプローチを提案します。また、そういう成果につながる行動綱領の創り方、見直し方、バージョンアップの方法を検討いたします。(裏面参照)



新刊本

2003年9月18日発売

大槻裕志著

『「行動綱領」で創りだす新しい企業価値』
プレジデント社 刊

◆講師紹介◆

大槻 裕志(おおつきひろし): (株)現代経営技術研究所主任研究員。経営コンサルタント。現研ヨーロッパ事務所(ロンドン) 所長を経て、96年帰国後は、企業・団体の中長期経営構想の策定、戦略推進などのプロジェクト指導、事業開発指導、幹部層・リーダー層への教育研修、人事教育制度設計を中心に活動。成蹊大学非常勤講師(担当講座「製品計画」)。